



ユネスコスクール便り

令和3年2月17日

No.103 大牟田市13校スクール
担当者通信

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成

パートナーシップで
目標を達成しよう



コロナ禍の中にあっても、各学校では、オンラインを活用した交流の工夫、活動の場づくりの工夫などにより、着実にSDGs/ESDが進められ、子ども達が問題解決に向けて活動の幅を広げています。

身近な社会の問題や世界全体の問題の解決を目指す上で重要なのは、パートナーシップです。本年度の実践においても、パートナーシップを大切にした取組が多く見られています。本年度の実践で得たノウハウを生かし、次年度に向けて、学校間交流、関係機関・団体・企業等との積極的な連携を盛り込んだ教育課程を編成していきましょう。

大牟田市には大牟田ESDコンソーシアムがあり、学校間交流や大学・企業・関係団体等との連携に関する豊富な情報があり、様々な支援を得ることができます。また、RCE大牟田として海外に広がるネットワークもあり、遠隔地との交流や世界の知見に学ぶことも可能です。これまで大牟田市が大切にしてきた「パートナーシップ」。今後ますますその重要性は高まっていきます。

特色ある実践事例の紹介

つなごう!ひろげよう!

「フラワータウンプロジェクト」 大正小学校



大正小学校は、「フラワータウンプロジェクト」に取り組んでいます。子ども達が、学校や地域で花を育て、育てた花をお世話になっている皆さんに感謝の気持ちを込めて届ける活動などを行っています。

コロナ禍の中でも、「銀水校区花いっぱい絆プロジェクト」に取り組む銀水小学校とテレビ会議を行って花の種を交換したり、松原中学校区の3校で大牟田市の花である「ヤブツバキ」を植樹したりするなど、他の学校とのつながりを深めながら活動をひろげています。

これからも、市内の仲間とともに、人々の明るい笑顔と美しい花であふれる大牟田のまちをつくるためにがんばっていきます。



ヤブツバキの植樹の様子

交流及び共同学習(新潟県見附市立見附特別支援学校との交流)を通して 大牟田特別支援学校



大牟田特別支援学校では「交流及び共同学習」を通して、対人関係の経験を広め、社会性を養い、好ましい人間関係を育成しています。同年齢の友達と接する機会が少ない、障害のある児童生徒たちにとって、他者と関わる大切な機会になっています。今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、直接ふれあう活動はできていませんが、障害のない児童生徒たちや大人にとっても互いに理解を深めたり、思いやりの心を育てたりする機会となっています。

同じユネスコスクール加盟校である新潟県見附市立見附特別支援学校とは、平成24年度から交流を続けています。今年度は1学期に小学部、2学期には高等部、3学期には中学部が作品の交流を行いました。右の写真は、本校の児童が1学期に見附特別支援学校の友達のために作成した「ひまわりの海」です。児童の手形を様々な海の生き物に見立てて表現しました。一人で魚やたこ、いか、クラゲを作ったり、二人で協力してかにやサメを作ったりしました。右の写真は、見附特別支援学校小学部の友達から届いた作品「クジラと海の仲間たち」です。この作品は、本校児童がよく活動する教室の前の廊下に掲示してあります。

交流を重ねるごとに、本校には見附特別支援学校の友達からの作品が増え、関わりが深まっていることに喜びを感じ、周囲の人たちとつながろうとする意欲を高めることができます。今後、交流をさらに充実させ、ESDを進めていきます。



「ひまわりの海」



「クジラと海の仲間たち」